

## 会 議 録

会議の名称	令和4年度 第1回 富士見市スポーツ推進審議会
開催日時	令和4年12月21日（水）19時30分～21時00分
開催場所	富士見市役所2階 第2会議室
出席者	谷澤誠会長、田中悦子副会長、武田圭介委員、神谷和義委員、矢野順也委員、望月多恵委員、鈴木豊委員、上杉健太委員 事務局（文化・スポーツ振興課）
欠席者	斉木正一委員、家田友樹委員
会議次第	議題 （1）協議事項 ①第2期富士見市スポーツ推進計画の進捗について （2）報告事項 ①令和4年度の取組について ②富士見ガーデンビーチの跡地利用について
会議資料	資料1 第2期富士見市スポーツ推進計画の進捗について 資料2 令和4年度の取組について
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議録確認	谷澤会長

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 協議事項

#### （1）第2期富士見市スポーツ推進計画の進捗について

→事務局から資料1（1ページ）に基づき説明

事務局…田んぼラグビーの参加者は、市内だけでなく、色々な所からお見えになっていたと思う。田んぼの目の前には難波田城公園、資料館があり、広い意味でシティセールスにも当てはまるのではないかと思う。スポーツチャレンジについては、FTパートナーズの事業であるが、越谷アルファーズによるバスケットボール、小原日登美氏によるレスリング、矢野順也氏によるセパタクローのご指導をしていただき、スポーツ選手との連携による体験教室の開催となったため、今後に繋がっていくと思う。

委員…行事の中で定員何人と書いてあるものがある。先ほど人数の実績報告があったイベントもあるが、定員があるものに関しては、定員数まで参加者が集まったのか。どのような申込状況だったのかが分かれば、そのニーズにマッチしていたのかどうか見えると思うため、情報があれば共有頂ければと思う。

事務局…子どもスポーツ大学に関しては、定員30名としたところ、60名以上の児童から応募があった。車いすハンドボール体験教室、デフサッカー体験教室、車いすバスケットボール体験教室に関しては、50名定員として募集をかけたが、30名や20名程度の参加となった。基本的には、ホームページ、広報富士見への掲載、学校へのチラシの配布にて周知した。担当課の中でも対象者や募集人数の検討をしているが、実際に事業を実施していくと小学4～6年生という対象に集まってしまっている。我々の事業のなかで子どもの取り合いをしているところもあるため、対象についても考え直さなくてはならないと思っている。中学生は部活があるため、土日の事業への参加が難しいこと、小学生は1～6年生で体力差・体格差があるので一緒にやるのが難しいことが課題になっており、1～3年生の低学年と4～6年生の高学年に分けての事業開催となっているのが現状である。

会長…資料を見ると、小学生を対象とする事業は高学年だけであるが、低学年対象の事業はあるのか。

事務局…資料の中で挙げた事業では、現状低学年を対象としたものはない。ヘルシーウォークなど親子での参加が可能なものはある。

会長…ヘルシーウォークは低学年でも無理なく参加できるものである。そのため、スポーツの事業としても歩くなどの簡単なものであれば低学年も巻き込むことができる。どのように低学年を巻き込んでいくかで、その子たちが高学年になった時に事業へ参加をする子が増えるどうかに関わると思う。子どもスポーツ大学は30人参加、30人ほど落選とのことだが、応募してくれた子たちへのフォローはどうしているのか。これだけの事業をやっているため、フォロー体系がとれているかによって参加者数も変わっていくと思う。また子どもスポーツ大学へ参加している子たちも他事業へ目を向けてもらう機会となると思う。

事務局…子どもスポーツ大学のために集めた個人情報を使って他の事業へ使用することは大変厳しい。子どもスポーツ大学以外では、個人情報を使用しないことを前提で募集している。応募してきた子たちはスポーツに興味があるため、その子たちをターゲットに宣伝をすることで、様々な事業に参加する機会が増えると思うが難しいところがある。

会長…個人情報の取り扱いの問題は仕方のないことである。子どもは広報を見ないため、保護者が広報を熱心に見ていないと情報が伝わらない。基本的に保護

者次第だと思う。働きかけをする媒体として、目で訴えることができるものが一番良いのではないかと思う。今年あまり参加者が集まらなかったものを、辞めずに継続して進めていくことで周知されたり、事業の評価をする中で重要性が強まるものもあると思う。そのようなものを精査しながら、次年度以降も継続していくという方針は資料を見るなかで感じる。そのような考え方も大事であると思う。

事務局…総合型地域スポーツクラブを運営する中で、低学年と高学年の子ども達の体力差や、集団行動などに対する取組み、経験等についてお話していただければと思う。

委員…4～6年生だけに対象を絞りたいというのは指導者、主催者の現場のマネジメント能力が関係する話であると思う。4～6年生しかできないことはない。対象を1～3年生にし、それに合わせて指導者が講義等を作るだけであるが、1人しか現場をマネジメントできる者がいないとなれば、4～6年生となることがある。1～3年生と4～6年生は扱い方が全く異なるため、多くの事業が4～6年生対象となることは理解できる。全学年集めたら、まとまらずどうすることもできなかった、という経験から対象を4～6年生に絞っているのであれば分かる。しかし、開催しようと思えば全学年対象でも事業は開催可能であると思う。逆に、体験系の事業であるならばあまり専門種目を持っていない低学年の方がいいのではないかと思う。

事務局…体験教室を1～6年生を一緒にするのは難しいか。

委員…やり方次第で可能であると思う。様々な事業を開催する中で、兄弟で参加したいという声はとても多く、4年生対象だけど1年生も一緒に参加できないかといった問合せはある。誰とやるかも重要であり、兄弟や友達などと参加できるものは現場の空気も良くなるのではないかと思う。現場をマネジメントできるのであれば、対象をあまり絞らず、広い範囲を対象とした方が良いと思う。

事務局…体験教室のようなものであれば、対象年齢にこだわらなくても問題ないのか。

委員…運動神経の良い2年生と運動の苦手な5年生だと、2年生の方ができたりすることもある。

事務局…来年度以降実施する事業の種目によっては、あまり対象を絞らず募集を試みることも検討する。

委員…対象をどこにするかを検討する際、運営側の都合で対象を絞るか、事業の中身に対して何年生を対象にアプローチしたいのかのどちらかで決めると思う。話を聞いていると、運営側目線で、自分自身がマネジメントできる4～6年生の高学年を対象としているように思える。参加者に対して提供する内容によって、どうなってほしいかを考えると、対象をどうするかというのは

参加者目線での話になっていくと思う。参加者目線も入れていった方が、実際に参加する側にとって良いのではないか。また、狙いも明確になると思う。このようなことも考慮していけると良いのではないかと思う。

→事務局から資料1（2ページ）に基づき説明

委員…「子どもバドテニス体験イベント in 富士見」は市発祥のバドテニスを多くの人に知ってほしいという思いから、市と教育委員会の後援のもと、小学生を対象に実施した。当日は富士見市PR大使の千種ゆり子氏を招き、21名の小学生に楽しんでもらえた。スポーツとSDGsをテーマにしたクイズを行い、スポーツと地球環境を考えてみることも試行的に行ったイベントとなった。

事務局…障がい者スポーツの普及促進、また理解ということで今年はかなりイベントを実施した。中でもボッチャの人気の増加したことや、体験をしたいという声が非常に多かったことから、スポーツ指導者養成講座にてボッチャを実施した。こういった声が多いために、より市全体に広めていき、競技人口を増やすことで、将来的には大会のようなものができるようになれば面白いのではないかと思う。年齢、障がいに関係なくできるスポーツであるため、多くの方にとって非常に面白いスポーツであると思っている。市民からの体験したいという声が多いため、現在様々な所でスポーツ推進委員にも協力賜り、指導をしていただいている。委員の皆様は、障がい者スポーツの推進や促進、またボッチャのニーズについてどうお考えか。

委員…特別支援学校の生徒によっては、正式なルールでは行うことができないが、小学1年生でも大人の支援があれば、楽しむことができるため、障がい、年齢に関わらず皆で楽しむことができるものであると感じている。ボッチャを通してコミュニケーションをとるということができ、非常に良い競技だと思うため、よりこのような輪が広がっていくと良いと思う。

事務局…車いすハンドボール、車いすバスケットボールといった体験教室を実施しているが、実際、小学校での障がい者スポーツの受入れニーズはあるのか。

委員…総合的な時間を使って福祉関係の取組みを学習している学年があり、そこで車いすや障がい者スポーツの体験を行っているが、活動がマンネリ化しているところがあるため、切り口としては面白いのではないかと思う。きっかけがあれば実施したい学校は多いのではないかと思う。

会長…資料にあるスポーツフェスティバルは、各学校対抗のドッジボールが盛り上がり、諏訪小学校のグラウンドまで使い、決勝戦を午後に市民総合体育館で実施した経緯がある。今は参加する学校が少なくなったと感じている。埼玉県の子どもは、スポーツ能力の中で投力が非常に低い。そのような現状改善

を狙って、大崎電気のハンドボールチームを子どもスポーツフェスティバルに招いたことがある。投力を上げるためにはボール投げが必要ではないかということで、前市長星野信吾氏に話をし、ゴールもなかったので簡易的な持ち歩きのできるものを準備しながら、ハンドボールの普及を図った。地域に根付くことで子どもたちの投力が上がることを期待していたが、富士見市ではあまり盛り上がりなかった。現在、ドッジボールやソフトボールの授業は実施しないのか。

委員…大崎電気のハンドボール部には、今も授業でハンドボールをご指導いただいております。数年間続いている。ドッジボールについては、低学年の学習の中に入っており、2～3年生が多く行っている。行ってはいるが、私が知っているドッジボールではなくなったと思う。ここ10～20年で、子どもたちは、ドッジボールを個人の戦いの場として捉えているように見える。チームでやり取りをしながら相手を倒すというものではなくなってしまった。「僕はまだボール投げてないから僕が投げたい」、そんな自分勝手なことをやっていたらみんな逃げるだけになるようなレベルのドッジボールをやっている。とにかく逃げると決めた子は一切ボールを取らない。逃げているだけで楽しいと言えば楽しいのかもしれないが、力強く投げたボールをしっかりとキャッチして、力強く投げ返してといったドッジボールはもうあまり見られない。先生たちがドッジボールをどこまで知っているのか、という疑問もある。野球、ソフトボール関係については、小学校でティーボールを行っている。しかし、ボールを投げず、置いてあるボールを打つ、そしてボールを取りに行くものであるにも関わらず、ノーバウンドで取れる子がいらないため、ワンバウンドやツーバウンドで取っている。また、取ったボールを投げたら、それを取ることができない子がいるため、ボールを持って場所まで走って行くなど、ルールを変えている。子どもの実態に合わせてルールを変えすぎて、本来の目的からずれているように思うが、このような傾向であるのは事実である。ボールを投げてアウトにしているところもあるが、相当技能は低いと思う。サッカーの方がよくやっている。

委員…ボッチャ体験が事業として目立っているが、ボッチャ体験の最後にどのような案内をしているか。「楽しかったね」で終わるのではなく、その後が重要であると思うが、継続的にボッチャをするための教室やクラブの案内は行っているのか。

事務局…体験するだけで終わってしまっていることが現実である。継続的なもの少なく、ここに出ている事業もすべて参加している人は違う。

委員…例えば、ボッチャを面白いと思い興味を持った人に対してはどうしているのか。

事務局…ボッチャセットの貸出を行っている。今後道具を増やしていければと思います検討はしている。

委員…それでは現状は、道具の貸出ができるため、家族や友達とすることができるということか。

事務局…今後はそのようにしていければ良いと思っている。現在は個人への貸出はしておらず、団体、町会、サークルへの貸出を行っている。

委員…イベントで盛り上がる種目と、日常的に行うことができる種目はそれぞれ結構あると思うが、ボッチャはどちらの種目に当てはまるのかまだわからない状態であるのか。日常的にボッチャを行っているサークルや団体はどのくらいあるのか。

事務局…ボッチャの団体、サークルは聞いたことがない。ペタンク等の団体はいくつかある。

会長…パラリンピックでボッチャが非常にクローズアップされた。スポーツ推進委員の各学校区事業としてもボッチャを行っているようだが、私が委員であった時は、富士見市発祥のバドテニス知らないまま卒業してしまう子が多かったため、学校区の事業でバドテニスをPRしてほしいと話をしていた。しかし、事業内容がラジオ体操に変わったり、参加する人が集まらなかったり、ラケットを持つと子どもたちが危ないといった意見が出たりしたが、できたら学校区の事業でPRしながらやっていっていただければなという気持ちはあった。

ボッチャ体験会を実施したが、その後はどうなのかというところがある。資料に実績を書いただけの話で、継続性が感じられない。今年も南畑小学校区でもボッチャをやったということだが、1回きりで終わっている。事業としては多くの体験会をやっているように見えるが、サークルもない中で行政がどこをフォローするのかというところも考えてほしい。スポーツ推進委員は多くの教室等で指導者をやってくれている。スポーツ推進委員はよくやってくれていると思う。

事務局…いかに継続して行ってもらうか、また活動場所の支援をして、団体等が起動に乗るまでどのように行政が携わっていくかの検討が必要である。

会長…例えば行政は、富士見市出身の方がボッチャでパラリンピックに出場したら、ボッチャの普及により力入れる。行政は小原日登美氏がオリンピックに出ることを知らなかった。メダルをとってから行政は慌ててレスリングによるPRを行った。また、市内にセパタクロウの選手がいるため、行政の後援を取りながら試合を開催することができる。ボッチャは障がい者スポーツであるため、市内での活動を継続するためのきっかけを模索していくことは大事であると思う。

→事務局から資料1（3ページ）に基づき説明

事務局…今年から運動公園の維持管理を委託している。今までは市の作業員が不定期に状況を見ながら整備をしていたが、今年から業者に委託をして少なくとも1週間に1回は手入れをしている。トイレの清掃や夏場の草刈の手入れも、これまでに比べると改善したと思う。委託の成果が我々の耳にあまり入ってこないが、利用者にとってこれまでよりは良い環境でスポーツをしていただけているのではないかと考えている。

委員…実際にテニスコートを使っているが、去年に比べるとコートの状況はだいぶ良いと思う。

事務局…感想が聞けてありがたい。スポーツ施設については、第2期スポーツ推進計画の中でも運動公園等スポーツ設備の再整備を大きな目標として掲げている。併せて、現在ある施設をよりよい環境で利用して頂くために、今まで以上にきめ細やかな維持管理に努めている。このような取り組みは引き続き行い、また新たな施設の整備についても力を入れていきたいと考えている。

会長…気温上がってくると大きな台風が来るため、河川敷のグラウンドは使用を考えた方がいいのではないかと。以前、台風の泥の片付けで何億円もかかっているのであれば、同額で土地を買ってしまうのではないかと。今後より大きな台風が来ることもあるだろう。

事務局…そのため、我々も計画の中で第2運動公園のグラウンド整備を検討したいと考えている。

会長…公園の敷地が真四角になると良いのではないかと。思う。

事務局…地元の方々にも協力を頂いて話を進めていけたら良いと考えている。

また、高齢者のスポーツに関する促進・推進等の活動状況についてはどうか。

委員…新型コロナウイルス感染症の影響により、自主的な体操サークル等の多くが閉じていたが、去年から復活し始めて、今年は8割程再開している。まだ再開していないところには様々手助けをしており、ほぼ復活してきていると言えるだろう。ウォーキンググループはコロナに関係なく活動していて、数も増えている。志木市はノルディックを熱心にやっている。ノルディックは道具を使うため、より運動を行った感覚がある。棒を使った準備体操などもやりやすいという意味で人気があるという。健康増進センターでも貸出用のセットを買って、皆さんに使ってもらえるようにしている。意外とウォーキング系は参加者が伸びている。

事務局…来年の4月にはびん沼公園のパークゴルフ場がオープンする予定である。ウォーキングコース、パークゴルフ場、BBQ場などの設備ができ、駐車場も多く完備されると聞いているため、スポーツの推進に一役かってくれる施設

になるのではないかと期待している。

事務局…奨励金関係の話に移るが、何件か問合せいただいたものについて、様々審査が通らず申し訳なかった。この前も世界大会の話があったが、アジア選手権はどうなったのか伺いたい。

委員…アジア選手権は来年にずれただけ、もう一度選考大会をやらせてもらえたらと思っている。中国での開催のため、ゼロコロナ政策の関係でどうなるか分からないが、一応1年延期の4～5月で選考し、選手を派遣する予定である。

事務局…奨励金というのは全国大会や関東大会、世界大会へ出場する方を対象に、個人には1万円、団体には5万円を上限に支援を行っている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で予算が余ってしまうほどの件数しか申請がなかったが、今年度は予算が足りなくなるほど多くの方に申請をいただいている。ねんりんピックにも富士見市の方が弓道で出場するという事で市長訪問をしたり、市民の方が様々な所で活躍をされている。我々も奨励金交付式を行って、市ホームページのフォトフラッシュというコーナーに掲載をし、富士見市で活躍されている方々を宣伝している。

また縄文マラソン改め、Fujimi シティマラソンが新たにスタートするという事で、我々もできる限りサポートができればと思っている。

会長…行政にも補助金を出してもらっているが、補助金がないと警備代が高くかかる分参加者に負担がいつてしまう。

事務局…令和4年度より第2期計画になったので、今年度12月までに実施した事業をまずは評価し、実績として集計する。この作業を毎年行い、実績を積みあげていく形でやらせていただければと思う。また本日が令和4年度の1回目であるが、年明け1～3月までの間に本日以降の事業評価も皆さんにご協力いただければと思う。

#### 4 報告事項

→事務局から資料2に基づき報告

事務局…富士見ガーデンビーチ跡地利用については、昨年度本審議会のなかでもスポーツ施設として整備していくという話をさせていただいた。現在、来年度の予算編成中だが、来年度から整備に向けて本格的に動き出したいと思っている。具体的な中身としては、屋外スポーツ施設の整備に向けて、市民の皆様から意見をいただき、どのような施設を作るか詰めていき、基本計画を策定する。基本計画の策定に当たっては予算編成作業中のため、決定ではないが、市民懇談会などを設けて市民の代表の方からどのような屋外スポーツ施設が良いか意見を聞きつつ、いただいた意見を踏まえて施設の概要を検討する。そして、多くの市民に向け説明会を開き、更なる意見をいただく。来年度1



年間かけてどのような施設にするのか決めていければと思う。その中でも審議会の皆さんにご意見をいただき、どのような施設にするのがふさわしいのか、また懇談会等でいただいた市民の皆様の意見もフィードバックさせていただきながら一緒に検討していただければと思う。昨年度もこの施設整備について何回か話をさせていただいたが、委員の皆さんからいただいた意見を参考に我々として整備したい施設の案を作成した。そのため、ゼロスタートではなく、市の考え方を示した上で、市民の皆様の声を聴きながらどのような施設を整備するのが良いのか、検討を進めていければと思っている。今後は具体的にどのような施設にしていくのかという話を詰めていく。これまで市議会の一般質問でも様々質問を頂いてきたが、プールの整備は屋内プール、温水プールを含めて難しいのではないかという見解である。現在の敷地の中でどのような施設を造ることができるのか、市民の皆様からこれまでいただいた意見を踏まえて考えたい。それこそテニスコートが富士見市には河川敷にしかないことから様々意見をいただいている。

会 長…テニス協会が富士見市のテニスコートは恥ずかしくて他団体を呼べないと言っている。隣の市町村へ行くだけでより良いテニスコートを整備している所がある。

事務局…そのような意見も踏まえ、跡地の敷地であれば十分に整備されたテニスコートを作ることができると思っている。

委 員…西中のテニスコートもかなり傷んでいる。全然補修されていない。

事務局…夜間照明は現在ハロゲンでの製造が無く、ほとんどがLEDになっているため、現設備は在庫でしか替えがない状態である。

会 長…LEDに改修すれば良いのでは。

事務局…営繕課に話を聞いたところ、テニスコートの夜間照明を全てLEDにすると4～5千万円くらいかかるとのこと。金額も含めどのようにしていくか検討する必要がある。

委 員…整備をした当時は夜間使用できるというのは珍しかった。

事務局…学生も夜間に使っていたのか。

委 員…昔は制限がなかったため、大会が近くなると使用をしていたが、ほとんど使用することは無かったと思う。当時はハンドボール部が強く、有名な指導者がいた。

会 長…ハンドボールが強かったと聞くと嬉しい。

事務局…現在、中学生は使用していない。

委 員…暗くなったら帰るという方針であるのだろう。

事務局…ガーデンビーチ跡地のスポーツ施設にも夜間照明を設置し、夜間も使用できるように検討していく。

会 長…ある程度方向性が決まったら、実際にスポーツをしている方々を入れて話し合い、検討していく必要があると思う。最初に体育館を作った時、大失敗の体育館と言われていた。今は素晴らしい施設となった。事故があつて大変だっただろうが、今の施設が体育館で、最初に造られたのは体育館ではない。ただ箱作っただけで、ひどかったと思う。

事務局…よく市民の意見を聞き、良い施設を作りたいと思う。

会 長…スポーツを実際に行っている人たちを巻き込んだ方が良いものができると思う。

## 5 その他 事務連絡

事務局…学校部活動の地域移行については、受け皿をどのようにするのか等の課題が新しく出てきているが、情報があまり入ってこないのが現状である。

委 員…一般の報道で流れている情報しか知らない。来年から3年で地域移行をしていく動きとなっているが、トーンダウンしている。

事務局…課題が多く出ていると聞く。

委 員…課題が多く出ているため、最悪地域移行することができなくても仕方ないというテンションになりつつあるのではないかと思う。地域によってだいぶ温度差がある。進めていくために検討している地域もあれば、なにもしないところもあると思う。どうなるのかと懸念している。

委 員…地域移行について、埼玉県から指針みたいなものはきていないのか。

事務局…全国レベルの話になっており、埼玉県でも白岡市、戸田市の2市をモデル事業として取組んでいるという情報は入ってきている。埼玉県で検証をし、そこでの事例を各市町で確認をしたり、どのような課題があるのか、デメリット、メリットがあるのかといったところを情報収集したりしている状況である。また、来年度から週末だけ移行していくといった話は聞いたが、現状では難しいと思う。スポーツの所管としても協力できる部分については関わっていく必要があると考えている。受け皿が一番の問題で、誰がどう指導するのか、場所はどこにするのか、一校に集約してやるのかなど、色々と課題があるため時間がかかるようである。今後そのような議論をできればと思う。

## 6 閉 会

以 上